

授業科目名	演劇教育入門	担当教員	平田 知之 石井 路子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	演劇教育には、演劇そのものの教育（芸術の教養として、専門家養成として）と、演劇を活用した教育がある。本授業では、主に後者について、演劇が教育とどのように結びついているのか、わが国の学校教育の中での実践例を中心に体験的に理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の種々の教育現場で、演劇がどのように取り入れられているのかを、体験的に理解する。</li> <li>・演劇的なものの見方、考え方が、教育にどのように有効なのかを、言語や身体を用いて、実践的に説明できるようになる。</li> <li>・学校だけでなく、観光、医療、介護の現場など、さまざまな場所で演劇を活用できる応用力を身につける</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 演劇が活用される教育現場とは 第2回 アイスブレイク探究／演劇教育と学習観（石井） 第3回 アイスブレイク探究／演劇的手法による学び（石井） 第4回 アイスブレイク探究／日本における演劇教育史概説（石井） 第5回 アイスブレイク探究／オンラインシアターゲーム（石井） 第6回 アイスブレイク探究／ファシリテーター論（石井） 第7回 演劇教育の現場 地域の学校で行う演劇ワークショップの実践例（平田知） 第8回 演劇教育の方法（1）演劇ワークショップのプログラム構成（平田知） 第9回 演劇教育の方法（2）ファシリテーションの技術と考え方（平田知） 第10回 演劇教育の方法（3）グループファシリテーションとサブ講師の役割（平田知） 第11回 演劇教育の方法（4）評価とリフレクション（平田知） 第12回 演劇を活用した教育の応用（石井、平田知）		
事前・事後学習	講義で毎回配布されるテキストを事前に読んでくる 講義の指示に従い、小レポートを作成する		
テキスト	各回の授業において資料を配付する		
参考文献	『高校生が生きやすくなるための演劇教育』（いしい, 2017, 立東舎） 『ワークショップー新しい学びと創造の場ー』（中野民夫, 2001, 岩波書店） 『ワークショップデザイン論』（山内祐平ほか, 2013/2021, 慶応義塾大学出版）		
成績評価の基準	平常点（ディスカッションやプレゼンテーションへの参加）60% レポート40%		

履修上の注意 履修要件	特になし（備考欄を参照のこと）
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	理論科目・演劇教育入門→実践科目・演劇ワークショップ実習D→理論科目・演劇教育論と系統的に科目を配置し、理論と実践の往還を目指しているため、履修計画の参考にしてほしい。